

特集
遠藤市政

歩12 み年の の

遠藤市長は、3期目が終了する4月16日をもって市長職を退くこととなりました。

今号では、まだ任期中ではありますが、3期12年を年表や写真で振り返ります。

そして、市長のエッセイ「比翼の束」もこの第78回をもちまして最終回を迎えます。

最後のメッセージをぜひご覧ください。





写真と年表で振り返る 遠藤市政3期12年

遠藤市長が在籍していた12年間には、実にいろいろなことがありました。
今号では、年表と写真とともに、その一端を振り返ります。
また、特に記憶に残る出来事については、遠藤市長が選び、しるし(◎)を付けました。

第1期 平成16年4月17日 ～ 平成20年4月16日	平成16年	4月	遠藤忠氏 第14代市長に就任
		12月	矢板市・塩谷町合併協議会解散◎
	平成17年	4月	矢板児童館オープン
			長峰公園せせらぎ水路完成
		5月	木幡北山はつらつ館オープン
		6月	矢板武記念館リニューアル
	平成18年	1月	生涯学習館オープン
			やいたみらいっ子誕生祝金制度開始
		4月	矢板保育所民営化でびっころ保育園に 矢板運動公園野球場本球場オープン
		9月	保健福祉センター完成
		10月	安沢小学校新校舎完成
		12月	第1回ふるさと創年大学開講
平成19年	3月	川崎城跡公園の塩谷朝業歌碑除幕式	
		助役から副市長制へ	
	4月	長峰公園花まつり開催 (つつじまつりリニューアル)	
		川崎城跡公園再生市民会議設立◎	
	9月	「市民力かわら版」創刊◎	
平成20年	12月	上太田市営住宅1号棟供用開始	
	4月	図書館に指定管理者制度導入	
	9月	第1回光と音のあんどんまつり開催 ～川崎城跡公園～ リーマンショック発生	
	10月	場外車券場道路法等不許可処分 取り消し判決(東京高裁)	
	11月	市制施行50周年記念事業◎	

第2期 平成20年4月17日 ～ 平成24年4月16日	平成21年		国際医療福祉大学塩谷病院診療開始◎
		4月	日新小・長井小・上伊佐野小を 泉小学校に統合
			ファミリーサポートセンター開設
			シャープ製テレビ購入費助成
		7月	国道4号線・氏家～矢板バイパス開通
		12月	環境都市宣言
	平成22年	2月	安沢小学童保育館完成
		4月	エコモデルハウスオープン
		11月	日新多目的グラウンドオープン 市の公式キャラクター 「ともなりくん」誕生
	平成23年	1月	第1回やいたブランド認証式(21品目を認証)
			東日本大震災～震度5強を記録～◎
		3月	都市計画道路 木幡通り開通 第2次21世紀矢板市総合計画策定
4月		きずな館オープン 道の駅やいたオープン◎	
9月		台風15号直撃～一部地域で避難勧告～ やいた未来クラブ発足 (結婚・子育てを支援する組織)	
10月		「広報やいた」1,000号を発行 暮らしのびのび定住促進補助事業開始 赤ちゃんの駅事業開始	
11月		まちづくり基本条例施行 スポレク“エコとちぎ”2011 グラウンド・ゴルフ大会開催	

第2期 平成24年4月17日 ～ 平成28年4月16日	平成24年	2月	とちぎ花フェスタ in YAITA 開催
		4月	中国徳清県との友好交流10周年 郷土資料館オープン(旧上伊佐野小学校)
		5月	矢板市メール配信サービス開始
		7月	まちづくり座談会(～10月 全16回) 市民協働推進指針策定
	平成25年	8月	シャープ栃木工場事業規模縮小問題◎
		9月	環境省から放射性指定廃棄物最終処分場の 建設候補地として、矢板市塩田字大石 久保の国有林野が選定◎
		10月	第1回やいた軽トラ市開催
		2月	環境省が指定廃棄物最終処分場候補地を 取り下げ、選定のプロセスを見直しへ◎
	平成26年	3月	市ホームページ全面リニューアル ツイッター・子育てメルマガ配信スタート 矢板版シンクタンク設立
		4月	FMとちぎで「矢板時間」放送開始 18歳までの医療費の無料化開始 第3子以降の保育園・幼稚園の無料化開始
		7月	民間から副市長登用
		9月	竜巻被害(9/4)
10月		ねんりんピック栃木2014 グラウンド・ゴルフフリーハーサル大会開催 中学生海外派遣初の英語圏へ	
4月		矢板市企業誘致戦略会議設立 防災行政無線稼働 城の湯温泉リニューアル	

第3期 平成28年4月17日 ～ 平成32年4月16日	平成26年	6月	場外車券場損害賠償請求事件上告棄却 (最高裁)◎
		8月	やいた八方ヶ原ヒルクライムレース2014開催
		10月	ねんりんピック栃木2014 グラウンド・ゴルフ交流大会開催
	平成27年	3月	JR片岡駅リニューアル◎ (橋上駅舎、東西自由通路) 矢板市環境基本計画策定
		4月	矢板市子ども・子育て支援事業計画 やいた子ども未来プラン策定 パパママ応援サイト「ともなーる」公開開始
		7月	シャープ家電製品購入費助成
		8月	市の公式LINE 「やいこみゅ」による情報発信開始
	平成28年	11月	(仮称)とちぎフットボールセンター 誘致市民の会発足
		12月	矢板那須線バイパス開通◎ ふるさと納税制度拡充
		1月	矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定
		2月	(仮称)とちぎフットボールセンターの 候補地に選定◎ 矢板市教育大綱策定 「こどものひろば」オープン
		3月	JR片岡駅 市営西口駐車場オープン、西口通り開通 第2次21世紀 矢板市総合計画後期基本計画策定





比翼の束 最終回を迎えて

「比翼の束」は、市長の想いを市民の皆さんに分かりやすく伝えるため、市長就任2年目の平成17年4月からスタートしました。

「比翼の束」とは、市民と行政とを翼に例え、2つを束ねてまい進するさまを表した言葉です。

エッセイ形式で書かれたその内容には、その時々感じた想いや考え方が散りばめられていました。普段市長と話す機会の少ない市民の皆さんへ、市長の考え方やプライベートなことなどを伝える貴重な機会でもありました。

この「比翼の束」も今号の第78回で最後を迎えます。遠藤市長は「比翼の束は、その都度、思うままに

思ったことを書き綴ったものです。長い間のご愛読誠にありがとうございました」と市民の皆さんへの感謝の気持ちを述べています。

「比翼の束」は、市ホームページの広報やいたバックナンバーに第60回以降のものを掲載しています。また、第1回から最終回までをまとめた本を遠藤市長が自費出版する予定です。

秘書広報課や図書館で貸し出す予定ですので、ご興味のある方は、どうぞご覧ください。

問い合わせ／秘書広報課 ☎(43)3764

HP <http://www.city.yaita.tochigi.jp/>

第78回 散りぬべきとき知りてこそ

4月、萌出づる春、眠っていた自然界が一気に動き出した。

咲き誇る桜の花は、近くで見ても遠くから眺めても、ことのほか美しい。

いよいよ「比翼の束」も最後となった。

今、あらためて振り返ってみると、3期12年間あつという間に過ぎてしまったような気がする。

これまでの日記や書棚の綴りをめくると、あれほど厳しかった数々のできごとが、いとも簡単に過ぎ去ってしまったかのような錯覚に落ち込んでしまう。

しかし、多くの人と出会い、出来ごとや歴史と出会い、悲喜こもごもの日々であったことには間違いない。そうした中で、私自身改めて人としての在り方を考えさせられ、教えられたような気がする。

日々の生活の中で、私どもにはどうしても誹謗・中傷というものが絶えない。

どうしてなのだろうか…。考えてみると、それは人の悪口や欠点を指摘することによって、何ともおさまりつかない自分の感情、思いを解消するためにもっとも簡単な方法だからであろう。

私ども人間は、大人でも子供でも、誰でも自分が認められたい、常に話題の中心にありたいという願望がある。

しかし、そう簡単には自分の思うほどに周囲の人たちは認めてくれないし、扱ってもらえない。

その不満や満たされない気持ちが、相手の悪口や批判、つまり誹謗・中傷となって現れてくるのであろう。

人それぞれ自尊心があり、プライドがある。自尊心というものは大切であるけれども、自尊心の強い持ち主ほど、他人の悪口や批判が多い傾向にあるような気がする。

結局は、自分の力では何としても自分を生き生きとさせられないので、他人を批判し中傷したりすることで、逆に自分の存在価値を示そうとする心理が働くのであろう。

私自身も、時には人の悪口を言ったり、批判したりしてしまふことがある。

後になって、自らの心の貧しさ、自信のなさに気付いて、罪深い人間であることの罪悪感に襲われる。

こうした日々の現実、競争社会に生きていく人間の性なのだろうか。

よく考えてみれば、他人を批判したり中傷したところで、得られるものは何もないし、ただむなしさだけ

が残るだけであることに気がつかない。

このことをしみじみと感じさせられ、苦しめられた日々であった。

また世の中には、誰からも相手にされない人がいる。なぜなのだろうか。いろいろ原因はあると思います。が、そういう人の一般的な傾向として、あまりにも自己中心的で他人への迷惑など考えなかったり、他人に対する要求ばかり多くて、逆に自分は何の責任も果たさない。

調子のいいことばかり言って、大変なことは自分からやろうともしない、信用のおけない人がいる。

しかし、それでいて、実際にはけっこうその人の要求が通ってしまったり、その人の思うようになってしまふケースが多々あるが、それは、周囲の人たちが仕方なくてそうさせてやっている事に気がつかない。

つまり、自分が周囲の人に甘えているということに気付かず、逆に相手が自分を受け入れてくれていると思っている。

甘えが許されるということ、大切にされている、尊重されているということは、表面上はよく似ているようであるが、これは決定的に違っていることを理解すべきである。

とりわけ、自分に自信が持てない人ほど自分を重要人物として扱ってもらいたいという思いが人一倍強くて、自分の思うようにさせようとする傾向が強いようである。

12年間の月日、様々な人との出会いの中で教えられ、励まされ、感涙にむせったことも沢山ありました。

また一方で、さまざまな出来ごとや事件の中で、いや気をさし、苦しめられたこともありました。

こうしたこれまでのさまざまな経験をとおして、「人間は耐えることによって本当に成長するんだということ。怒りや不満をこらえることができなければ、大きな仕事はできないということ」を教えられました。

まちを動かすのは人の力であります。人にもそれぞれ人格があるように、まちにも、そのまちの品格というものがあつあります。品格のある誇れる矢板市であることを願っています。

矢板市長 遠藤 忠